

■石上宅嗣 公卿・文人。淡海三船とともに文人の首と評され、旧自邸に外典の院を設けて好学の徒に開放した。

いそのかみやかつぐ

長屋王の変・729= 生。上級貴族の家系。乙麻呂の子。左大臣麻呂の孫。

藤原四卿没・737= 8歳：

橘諸兄右大臣 738= 9歳：

大仏鑄造始・747=18歳：

懐風藻・・・ 751=22歳：淡海三船が還俗した年、従五位下となり、

・・・・・・・ 753=24歳：時に、治部少輔。茨田王・道祖王らと新年の宴を主催、「万葉集」収録の歌1首。
以後、相模守・三河守・上総守を経て、

聖武天皇没・756=27歳：*この頃から、淡海三船とともに文人の首と評され、

・・・・・・・ 761=32歳：遣唐副使に選ばれた際、記念してか、*みずからの旧宅を寄捨して阿闍寺とし、その寺内の東南隅に芸亭を設けて、好学の徒に開放、「芸亭条式」を定めたとされ、図書館の先駆者でもあった。

新羅征討計画 762=33歳：罷免される。その後、侍従・文部(式部)大輔となったが、

押勝暗殺計画 763=34歳：「唐大和上東征伝」に収録の鑑真の死悼む詩1首。この頃、**藤原宿奈麻呂・佐伯今毛人・大伴家持らと謀り、当時隆盛を誇っていた藤原仲麻呂を排斥しようと企てたが、密告されて計画は露見し、宿奈麻呂一人が責めを負って事なきをえたが、このため大宰少弐とされたようである。**

惠美押勝の乱 764=35歳：正五位上となり、常陸守、

・・・・・・・ 765=36歳：中衛中將を経て、

道鏡法王・・・ 766=37歳：「経国集」収録の詩1首。参議となり、正四位下に昇る。

・・・・・・・ 768=39歳：従三位となり、式部卿も兼ねた。新羅との貿易用に大宰府の綿4000屯下賜される。

宇佐八幡神託 769=40歳：

光仁天皇・・・ 770=41歳：***称徳天皇の崩後、藤原永手らとともに策を禁中に定め、吉備真備らが文室浄三・文室大市を推したのに対抗して、白壁王すなわち光仁天皇の擁立に成功した。**

東大寺完成・ 771=42歳：中納言に移り、大嘗会に神楯棒を樹てて威儀を整え、名門としての面目を果たし、

・・・・・・・ 774=45歳：

・・・・・・・ 775= 46歳：願い出て物部朝臣の氏姓を賜わがる、

・・・・・・・ 779=50歳：賜姓のかたちで石上大朝臣と戻る。この頃、山部親王(のちの桓武天皇)の皇太子博を兼ねた。

蝦夷大反乱・ 780=51歳：大納言となり、

桓武天皇即位 781=52歳：***正三位に進んだが、没した。**

藝伝には「著わす所詩賦数十首、世多くこれを伝誦す」とある。特に「三蔵讚頌」「飛錫述念仏五更讚」「浄名経贊」は唐にももたらされたという。